

平成 29 年 11 月提出

大船渡市議会議長 様

会派名 日本共産党大船渡市議団
市議会議員 滝田松男

研修報告書

1 研修日時

平成 29 年 11 月 10 日～11 月 11 日

2 研修先・内容

災害対策全国交流集会 2017in 東京

主催・全国災対連 他

後援・賛同自治体 大船渡市・陸前高田市 他

会場 東京北区:北とぴあ・飛鳥ホール

11 月 10 日 全体会・分科会

11 月 11 日 記念講演・全体会

研修参加者 市議会議員 滝田松男 1 名

・ 11 月 10 日

開会、主催者あいさつの後、被災地からの報告として、岩手、宮城、福島、広島、茨木、熊本、九州北部の各地からの報告があり、その後 5 分科会が開催された。

分科会内容 第 5 分科会 テーマ「異常気象と風水害」

講師 元気象研究所研究室長・理学博士 増田善信氏

・ 11 月 11 日

記念講演 テーマ「首都直下・南海トラフなど巨大地震災害に備える」

講師 東京大学地震研究所 所長 平田 直氏(国地震調査委員会委員長)

記念講演の後各分科会からの報告があり、その後全体討論、まとめ、閉会挨拶で終了した。

3 報告

(1) 第5分科会「異常気象と風水害について」

- ・異常気象の気象庁の定義

- ① 30年に1回以下の、平常的には現れない気象現象(高温や低温、或は集中豪雨、竜巻など)
- ② しかし、最近は頻繁に起こっている。

- ・災害の種類

「災害は忘れたところにやって来る」は死語に。

- ・天災—自然現象が原因

- ① 地震、津波、火山噴火など地殻変動が原因
- ② 集中豪雨、竜巻、スーパー低気圧など狭い範囲の激しい気象現象
- ③ 熱波、寒波など10日以上も同じ天候が続く異常現象
- ④ 異常気象が原因の疾病 熱中症、デング熱、インフルエンザ

- ・天災が人災を激化させる災害

- ① 雪害
- ② 雪崩
- ③ ダム崩壊
- ④ 飢饉

- ・人災—人為的な原因

- ① 交通災害
- ② 食品災害
- ③ 原発事故
- ④ 戦争こそ最大の人災

- ・災害は社会現象

- ① 人のいないところでは災害は起こらない。
- ② 人の対応如何で災害になる場合もならない場合もある。
- ③ 防災、減災は社会的対応が必要

(2) 記念講演「首都直下・南海トラフなど巨大地震災害に備える」

「熊本大地震と南海トラフとして想定されている地震には、関連性がある」と語り、「大きな地震は連続する。それが熊本地震で証明された。また巨大地震が発生した領域の隣の領域も発生する可能性がある。」とも。

災害時の国民の対応として、まだ、国も気象庁も未定としている部分もあるので、今後の進展には十分に関心を持ちつつ、今後の災害には自分で判断し行動する重要性が強調された。

海底での地震で1分以上地震が続けば津波が来る、M8位の地震となるから。東日本の時は3分続いた。

まとめとして、災害軽減のため、事前の準備と「地震発生の可能性が高い」情報の活用が必要、耐震化と津波からの早期避難が必要。

今の科学で実力を生かすこと、災害対策を社会全体で考えることがこれまで以上に重要になってくると話しました。